

2015年9月期 第3四半期 決算説明資料

2015年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2015年9月期 第3四半期 業績(連結)

(単位：百万円)	2014年9月期 第3四半期 (A)	2015年9月期 第3四半期 (B)	前年同期比 (B)-(A)	2014年9月期 通期実績	2015年9月期 通期業績予想 (2015年5月発表)
売上高	2,756	3,445	689	3,911	7,000
売上総利益	1,985	1,379	△606	2,398	—
営業利益	663	△281	△945	555	1,250
経常利益	709	△100	△809	684	1,200
当期純利益	861	△87	△949	923	1,100

第3四半期の主要ポイント

ポイント①⇒太陽光発電事業の優良プロジェクトを確保。アレンジメント業務は減少。

- ・固定価格買取制度による買取価格引下げが続く中、優良プロジェクトを確保する施策を最優先で推進。確保したプロジェクトを第4四半期以降の収益源とする。
- このため、第2四半期まで好調であったアレンジメント業務受託が、当第3四半期に入り減少。

ポイント②⇒ベンチャーキャピタルファンド(FGF)から分配金受領も収益計上は4Q。

- ・FGFから大型案件のエグジットによる分配金5.8百万米ドルを2015年6月に受領。大型案件の投資倍率は約4倍。このエグジットを反映した2015年6月までのFGF決算を、2015年9月期第4四半期で取込予定。(2014年11月発表の当初からの業績予想には、反映済み)

ポイント③⇒Metsä(メツァ)事業が本格始動。

- ・2015年6月30日、西武鉄道(株)と埼玉県飯能市宮沢湖周辺の不動産の売買契約を締結。
- ・地元自治体の飯能市と「地方創生に関する基本協定」を締結。ムーミンの世界を体験できる施設開設や観光振興等で、連携協力。

ポイント④⇒第14回新株予約権の権利行使が進み、8月4日に行使が完了。

- ・2015年4月7日に発行。8月4日の行使完了までに2,392百万円を調達。
- 資金使途 ①ムーミンテーマパーク事業 ②再生可能エネルギー事業若しくはベンチャー企業等(ファンドを含む)への投融資

ポイント⑤⇒建設事業の岡山建設(株)の株式売却により、当第3四半期より連結除外。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

セグメント別業績

【売上高はセグメント間取引を含む。】

	(単位:百万円)	2014年9月期 第3四半期	2015年9月期 第3四半期	前年同期比	主な連結会社
1	投資銀行事業	売上高 1,522 営業利益 1,277	785 542	△737 △734	当社 (FGI)、フィンテックアセットマネジメント (FAM) フィンテックグローバルトレーディング (FGT) (注)
2	不動産事業	売上高 583 営業利益 △15	2,213 △45	1,630 △29	ベルス、ユニハウス、 ベターライフハウス
3	建設事業	売上高 606 営業利益 △7	423 △0	△183 6	岡山建設 (注)
4	その他	売上高 55 営業利益 △14	34 △74	△20 △59	ムーミン物語、アダコテック パブリック・マネジメント・コンサルティング (PMC) (注)
	調整額	売上高 △10 営業利益 △575	△11 △704	0 △128	
	連結PL計上額	売上高 2,756 営業利益 663	3,445 △281	689 △945	

(注) FGT、ムーミン物語、アダコテックは第2四半期会計期間より連結。PMCは第1四半期末に、岡山建設は当第3四半期期首より連結の範囲から除外。

・有力EPC事業者(設計、機器調達、建設を含むプロジェクト事業者)との協働で優良な案件を確保し、発電事業者に投資機会を提供することで、第2四半期までに多くの太陽光発電事業のアレンジ業務を受託。

現時点で、10件程度(計約20MW)の太陽光発電プロジェクトを確保できる見込みが付き、これを第4四半期以降の収益源とする。

・第2四半期にサービス付高齢者向け住宅を保有するSPCからアレンジ、アセットマネジメント(不特法第3号事業)を受託。

横展開により、第4四半期にも複数のサ高住のアレンジ等の受託を見込む。

・ベンチャーキャピタルファンド(FGF)への投資は、FGFで2014年10月にエグジットがあるも減損した投資先企業もあり、評価損を計上。

・前第3四半期累計期間に投資事業組合から大型の投資回収(売上高・営業利益で12億円)があったため、前第3四半期比では減益。

・ベルスは、持家支援サービスで分譲物件の引渡しが増加し、紹介料売上が計画を上回る。30万人規模の会員組織への持家支援サービス等の提供が決定。進捗が遅れていた不動産業務が、2015年5月に不動産事業用地の仕入れに至る。

・ベターライフハウス等の不動産販売業務は、第2四半期から建築を開始した戸建住宅が当第3四半期に最初の竣工を迎える。当第3四半期に、販売用不動産の売上が伸長。

・ユニハウスの不動産仲介業務は苦戦がみであるが、成約率向上を企図した職域ネット展開を強化。大手企業や官公庁などの職域提携の増加のため、法人営業の強化、物件紹介のウェブサイト全面改訂等の施策を展開。

・建設事業を行う岡山建設の普通株式を2015年5月に売却、当第3四半期より連結の範囲から除外。(第2四半期からの進捗はない)

・ムーミン物語は、メツァ(Metsä)事業のコンセプト、コンテンツの検討を当社とともに進める。

・アダコテックは、パターン認識技術を用いた異常検知等に係るソフトウェアの開発、販売を行う。製品の製造工程や防犯、医療・介護等の多様な分野に応用できるため、安全確保の取組をする運輸・旅客業界やIPカメラメーカーなどの大手企業から引合が増加。

営業投資有価証券、販売用不動産等の推移(連結)

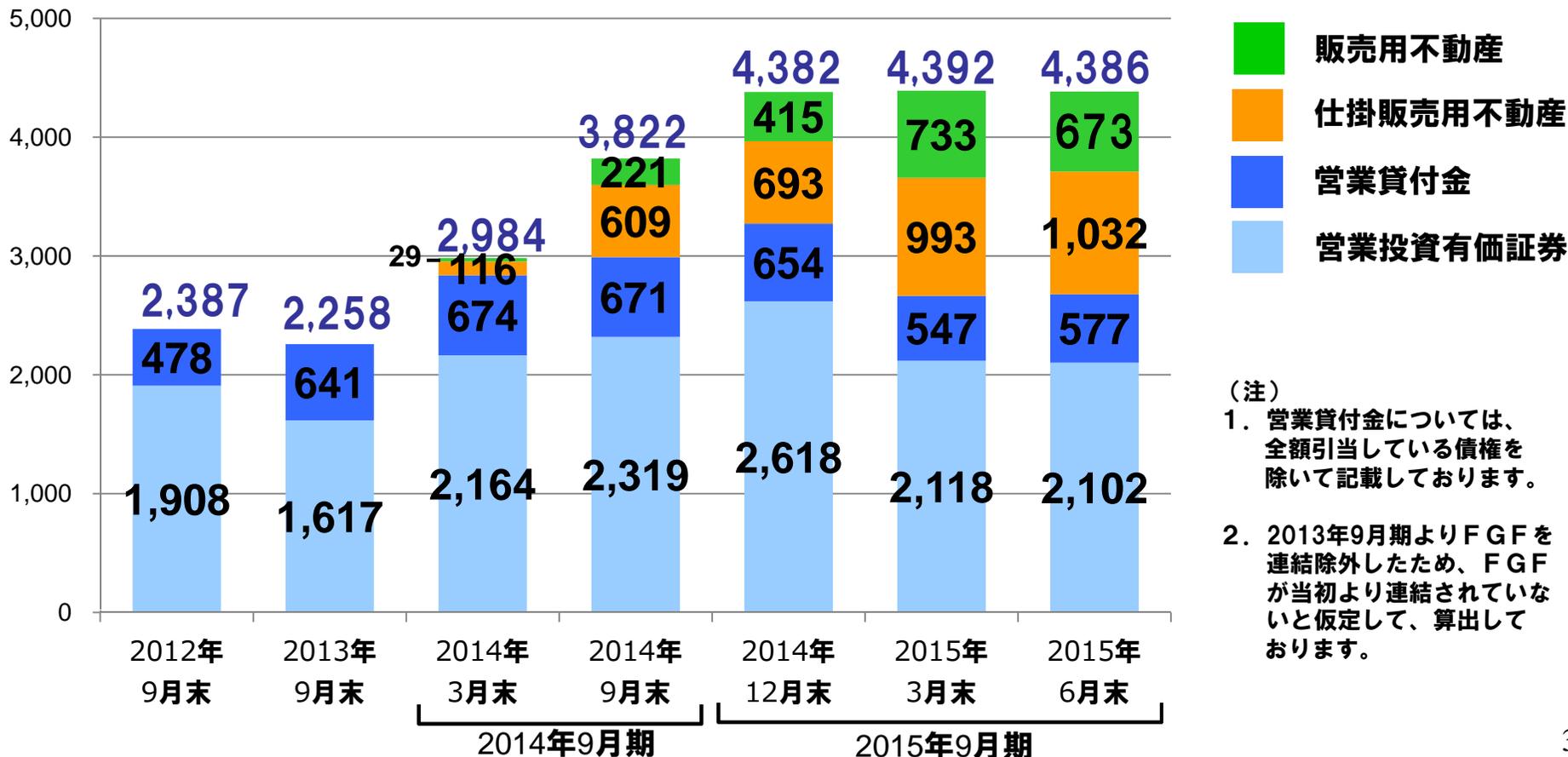
・営業投資有価証券

2015年6月末残高は、2015年3月末比で16百万円減。

・ドル建のベンチャーキャピタルファンド(FGF)投資における為替差益及び新規企業投資の実行があったが、FGFの評価損やFGIが投資する企業投資ファンドからの投資回収により総額では減少。

・戸建住宅用地の取得、建築－販売用不動産、仕掛販売用不動産の合計額が2015年3月末比で20百万円減少。販売用不動産の売上が伸長。

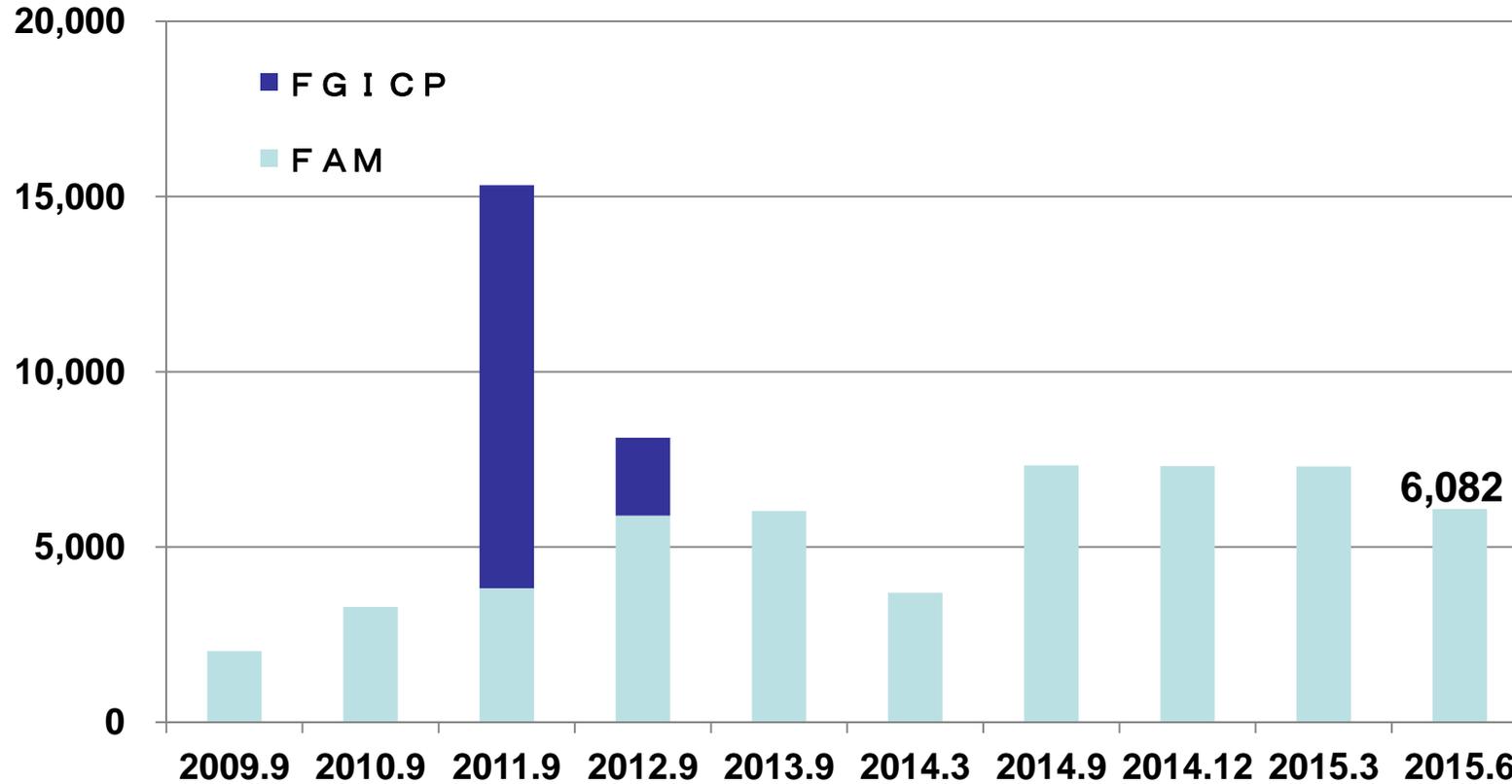
(単位：百万円)



アセットマネジメント事業の受託資産残高(AUM)の推移

(単位：百万円)

不動産関連へのファンドの受託残高が増加。
 企業投資ファンドの受託残高がファンド期間終了（2015年9月）に向け減少



2014年9月期

2015年9月期

フィンテックアセットマネジメント (FAM) の子会社化
 FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP) の子会社化

【当社等が出資するFINTECH GIMV FUNDの資産額（2015年3月末純資産26百万ドル）は含んでおりません】

連結貸借対照表

資産の部		(単位: 千円)	
	14年9月期	15年9月期 第3四半期	増減
流動資産	6,591,999	8,734,666	2,142,667
現金及び預金	2,034,917	3,670,646	1,635,728
1 受取手形・売掛金	255,142	145,617	△ 109,524
※ 完成工事未収入金	247,275	—	△ 247,275
2 営業投資有価証券	2,319,357	2,102,513	△ 216,844
営業貸付金	857,021	762,732	△ 94,289
3 販売用不動産	221,332	673,301	451,969
仕掛販売用不動産	609,460	1,032,734	423,273
※ 未成工事支出金	2,387	—	△ 2,387
その他	329,132	580,415	251,282
貸倒引当金	△ 284,028	△ 233,293	50,734
固定資産	860,247	866,376	6,129
4 有形固定資産	121,373	315,014	193,641
無形固定資産	164,331	155,403	△ 8,928
投資その他の資産	574,541	395,959	△ 178,582
資産合計	7,452,246	9,601,043	2,148,797

1 再生可能エネルギー事業のアレンジに係る売掛金回収による減少

2 FGIが投資する企業投資ファンド回収が進むが、新規企業投資も伸長。ムーミン物語子会社化(2Q)により残高が減少

3 主に不動産事業での戸建用地取得による増加

4 事業拡大に伴い、不動産事業の子会社が営業所を取得

5 ベンチャーファンド(FGF)の分配金受領による増加

6 主に不動産事業における借入、私募債発行による増加

※は、岡山建設を連結除外したことにより、大きく減少、又は残高がゼロになった科目

負債の部		(単位: 千円)	
	14年9月期	15年9月期 第3四半期	増減
流動負債	1,459,524	2,615,119	1,155,594
※ 支払手形・買掛金	254,826	11,987	△ 242,838
※ 工事未払金	65,396	—	△ 65,396
短期借入金	628,100	1,314,845	686,745
1年内償還予定の社債	16,000	46,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	13,068	158,552	145,484
※ 未成工事受入金	55,867	—	△ 55,867
5 預り金	187,038	806,454	619,416
その他	239,228	277,279	38,051
固定負債	457,877	696,566	238,688
6 社債	24,000	121,000	97,000
長期借入金	226,591	413,930	187,339
退職給付に係る負債	148,926	114,250	△ 34,676
繰延税金負債	45,797	35,172	△ 10,624
その他	12,562	12,213	△ 349
負債合計	1,917,402	3,311,686	1,394,283

純資産の部

株主資本	5,507,738	6,254,236	746,497
資本金	3,351,561	3,860,918	509,356
資本剰余金	929,373	1,438,730	509,356
利益剰余金	1,226,803	954,587	△ 272,216
その他の包括利益 累計額	△ 573	△ 42,292	△ 41,718
新株予約権	4,168	21,784	17,616
少数株主持分	23,510	55,628	32,117
純資産合計	5,534,844	6,289,357	754,513
負債純資産合計	7,452,246	9,601,043	2,148,797

連結損益計算書

(単位: 千円)

	2014年9月期 第3四半期	2015年9月期 第3四半期	増減
売上高	2,756,648	3,445,881	689,233
売上原価	771,082	2,066,561	1,295,478
売上総利益	1,985,565	1,379,319	△ 606,245
販売費及び一般管理費	1,321,594	1,660,978	339,383
営業利益又は営業損失(△)	663,970	△ 281,658	△ 945,629
営業外収益	56,152	210,734	154,581
営業外費用	10,755	29,677	18,922
経常利益又は経常損失(△)	709,368	△ 100,601	△ 809,969
特別利益	178,200	23,930	△ 154,269
特別損失	13,184	2,280	△ 10,904
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純利益(△)	874,383	△ 78,951	△ 953,335
法人税等	6,521	18,359	11,837
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純利益(△)	867,862	△ 97,310	△ 965,172
少数株主利益又は少数株主損失(△)	6,275	△ 9,327	△ 15,603
四半期純利益又は四半期純損益(△)	861,586	△ 87,982	△ 949,568

1 投資銀行事業は、投資銀行業務(アレンジメント業務受託等)は売上高が増加するも、投資回収では大型の回収による売上がなかったため、大型の投資回収があった前第3四半期比では、売上高は減少。

不動産事業による売上高、売上原価が増加 [不動産事業の連結子会社5社は、2014年3Qから損益計算書を連結]

2 前第3四半期(2014年9月期3Q)に計上していた仲裁費用はなくなったものの、子会社増加及び人員補強により、人件費、地代家賃が増加。また、不動産事業の宣伝広告費等が増加。

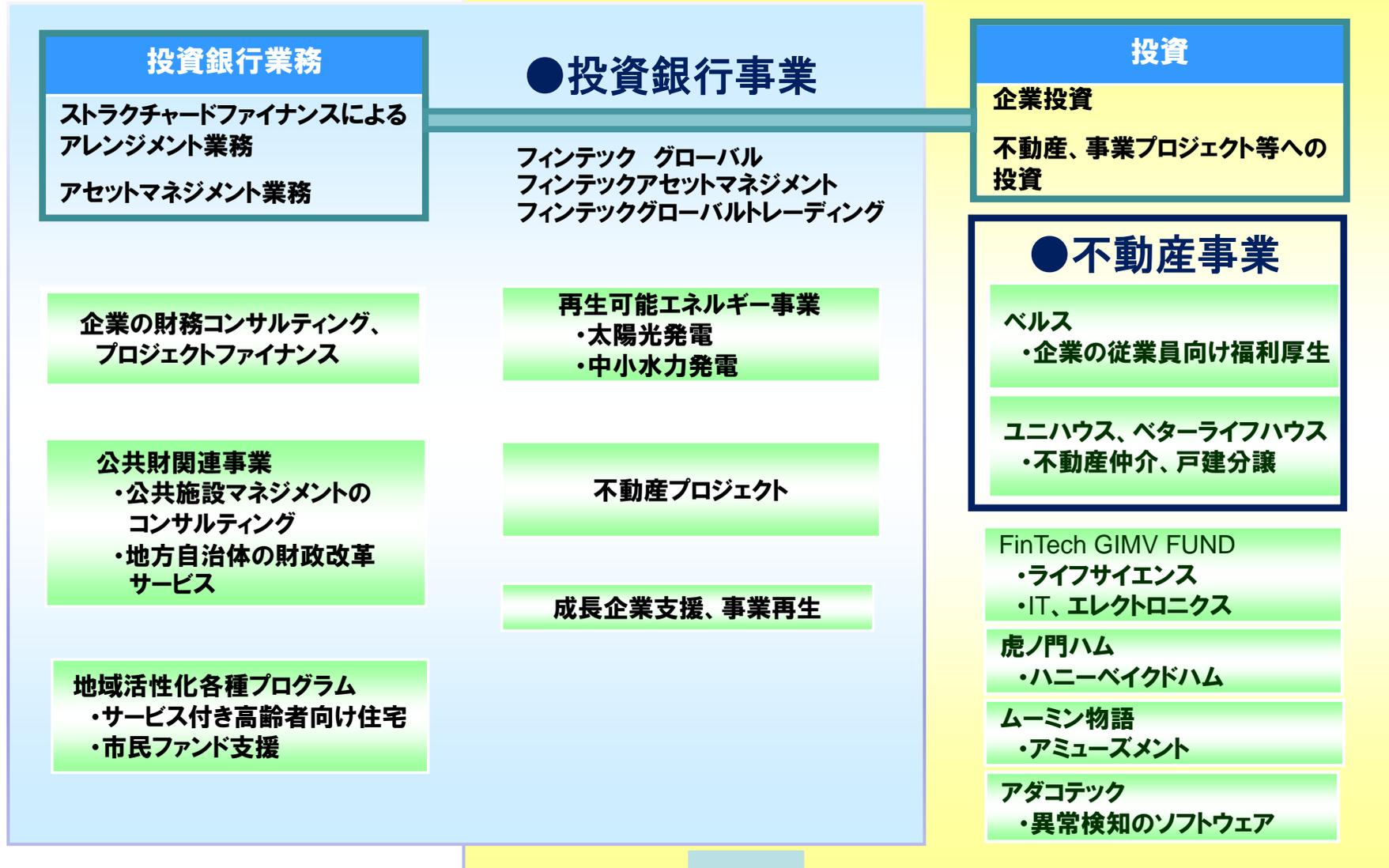
3 為替差益166百万円の計上(主にFGIのベンチャーキャピタルファンド(米ドル建)への投資によるもの)

参考資料

- FGIグループの事業領域
- 個別財務諸表（貸借対照表、損益計算書）
- 連結業績推移（6期分）
- 子会社単体業績の推移

FGIグループの事業領域

ストラクチャードファイナンスによるアレンジメント業務から始まった当社は、アセットマネジメント、企業投資、不動産等への投資に事業領域を拡大。



顧客企業、投資先企業、ファンド、地方自治体、個人顧客

個別貸借対照表

	資産の部		
	14年9月期	15年9月期 第3四半期	増減
流動資産	4,837,705	6,594,812	1,757,106
現金及び預金	1,172,656	3,047,097	1,874,441
売掛金	205,826	106,962	△ 98,864
営業投資有価証券	2,313,509	1,995,154	△ 318,355
営業貸付金	877,981	783,692	△ 94,289
短期貸付金	443,504	756,887	313,383
その他	104,211	182,279	78,068
貸倒引当金	△ 279,984	△ 277,261	2,722
固定資産	905,930	992,920	86,990
有形固定資産	107,451	100,185	△ 7,265
無形固定資産	1,961	9,670	7,709
投資その他の資産	796,517	883,064	86,546
資産合計	5,743,636	7,587,733	1,844,097

	負債の部		
	14年9月期	15年9月期 第3四半期	増減
流動負債	548,909	1,270,642	721,733
買掛金	46,938	11,861	△ 35,077
短期借入金	265,100	391,600	126,500
1年内返済予定の長期借入金	—	16,668	16,668
未払金	25,525	40,860	15,335
預り金	163,728	772,829	609,101
賞与引当金	18,721	17,619	△ 1,101
その他	28,896	19,202	△ 9,693
固定負債	100,095	138,665	38,570
長期借入金	—	27,776	27,776
リース債務	1,254	590	△ 664
退職給付引当金	69,925	79,792	9,866
その他	28,914	30,506	1,591
負債合計	649,004	1,409,307	760,303

純資産の部			
株主資本	5,091,706	6,199,602	1,107,895
資本金	3,351,561	3,860,918	509,356
資本剰余金	916,784	1,426,140	509,356
利益剰余金	823,361	912,543	89,182
評価・換算差額等	△ 1,243	△ 42,962	△ 41,718
新株予約権	4,168	21,784	17,616
純資産合計	5,094,631	6,178,425	1,083,793
負債純資産合計	5,743,636	7,587,733	1,844,097

個別損益計算書

(単位: 千円)

	2014年9月期 第3四半期	2015年9月期 第3四半期	増減
売上高	1,387,648	648,730	△ 738,918
売上原価	151,825	163,656	11,830
売上総利益	1,235,823	485,073	△ 750,749
販売費及び一般管理費	667,053	787,422	120,368
営業利益又は営業損失(△)	568,769	△ 302,348	△ 871,117
営業外収益	98,496	233,719	135,222
営業外費用	68,244	52,262	△ 15,981
経常利益又は経常損失(△)	599,022	△ 120,891	△ 719,913
特別利益	137	269,903	269,765
特別損失	94,108	10,930	△ 83,177
税引前四半期純利益	505,051	138,081	△ 366,970
法人税等	△ 29,005	△ 24,699	4,306
四半期純利益	534,057	162,780	△ 371,276

連結業績の推移

決算年月		2010年 9月期	2011年 9月期	2012年 9月期	2013年 9月期	2014年 9月期	2015年9月期 第3四半期
売上高	(百万円)	3,465	6,988	2,038	1,603	3,911	3,445
売上総利益	(百万円)	935	3,509	908	1,468	2,398	1,379
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 2,604	1,220	△ 915	88	684	△ 100
当期純利益又は当期純損失(△)	(百万円)	△ 2,172	1,404	△ 1,274	182	923	△ 87
純資産額	(百万円)	3,164	4,870	3,632	2,716	5,534	6,289
総資産額	(百万円)	7,352	7,682	6,417	4,770	7,452	9,601
1株当たり純資産額	(円)	20.25	31.52	19.82	22.23	37.41	40.21
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額(△)	(円)	△ 17.99	11.69	△ 10.70	1.52	6.92	△ 0.59
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	—	11.68	—	1.52	6.89	—
自己資本比率	(%)	33.3	48.9	36.8	56.4	73.9	64.7
自己資本利益率	(%)	△ 61.2	45.3	△ 41.7	7.2	22.5	—
株価収益率	(倍)	—	2.6	—	21.9	9.2	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	626	1,953	959	△ 464	△ 2,208	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,281	△ 631	80	85	509	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 3,376	△ 413	△ 233	△ 128	2,065	—
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	829	1,711	2,522	1,644	2,024	—
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	72(13)	70(17)	60(19)	51(13)	109(7)	109(9)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	40(2)	15(2)	20(3)	26(3)	24(3)	32(3)

当社は、2014年4月1日を効力発生日として、1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2010年9月期の期首に行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

子会社単体業績の推移

単位：百万円

セグメント：投資銀行事業

フィンテック アセット マネジメント	2013年9月期			2014年9月期			2015年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	第3四半期
売上高	118	73	191	179	86	265	61
売上総利益	117	73	191	179	80	260	61
経常利益	36	△7	29	105	21	126	14

セグメント：投資銀行事業

フィンテック グローバル トレーディング (注)1	2015年9月期
	第3四半期 (2015年1月 ～6月)
売上高	165
売上総利益	163
経常利益	115

セグメント：建設事業

岡山建設 (注)2	2014年9月期	2015年9月期
	下半期 (2014年3月 ～9月)	(2014年10月 ～2015年3月)
売上高	979	423
売上総利益	83	54
経常利益	26	1

セグメント：不動産事業

ベルス	2013年9月期			2014年9月期			2015年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	第3四半期
売上高	248	256	505	209	233	442	344
売上総利益	207	216	424	169	192	362	255
経常利益	2	3	5	△9	13	3	△5

セグメント：不動産事業

ユニハウス (注)3 (注)4	2014年9月期	2015年 9月期
	下半期 (2014年4月 ～9月)	第3 四半期
売上高	39	323
売上総利益	39	323
経常利益	△63	△52

セグメント：不動産事業

城南開発 (注)3 (注)5	2014年9月期	2015年9月期
	下半期 (2014年4月 ～9月)	第3 四半期
売上高	152	13
売上総利益	152	13
経常利益	23	△11

セグメント：不動産事業

ベターライフ ハウス (注)3	2014年9月期	2015年 9月期	スリーオーク (注)3	2014年9月期	2015年 9月期
	下半期 (2014年4月～9月)	第3 四半期		下半期 (2014年4月～9月)	第3 四半期
売上高	20	1,337	売上高	321	282
売上総利益	17	94	売上総利益	30	10
経常利益	△11	△13	経常利益	8	9

セグメント：不動産事業

セグメント：その他

ムーミン物語 (注)1	2015年9月期
	第3四半期 (2015年1月 ～6月)
売上高	0
売上総利益	0
経常利益	△38

セグメント：その他

アダコテック (注)1	2015年9月期
	第3四半期 (2015年1月 ～6月)
売上高	13
売上総利益	13
経常利益	△1

(注)1 2015年1月より連結業績に取り込んでおります。

2 2014年3月より連結業績に取り込みましたが、株式譲渡によって2015年9月期第3四半期より連結範囲から除外しております。

3 2014年4月より連結業績に取り込んでおります。

4 2014年6月30日、ユニハウスホールディングスが城南開発(旧ユニハウス)より事業譲渡(商号譲渡を含む)を受け、商号をユニハウスとしております。

5 2014年6月30日、ユニハウスから城南開発に商号変更しております。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2015年9月期第3四半期業績に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実(以下、「将来情報」ということがあります)の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付(または当該資料・文書に別途明示された日付)時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関する法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

